



# Join us!!

横浜市立岡津小学校 国際協カクラブ通信【Join us!! ジョイナス】

令和2年1月12日 第4号

担当 塚本靖則 小木曾里奈 正木悠也



## いざ！城ヶ島海岸へ！プラスチックの調査へ行ってきました！

「岡津と世界をつなげよう！」を合言葉に活動を進める「岡津小学校国際協カクラブ」。今回は、NPO 法人海の森・山の森事務局を運営されている豊田直之さんをお招きして海のプラスチック問題についてお話を伺いました。国際協カクラブでは、昨年度より海のプラスチック問題について学んできました。昨年度は、プラスチックゴミが環境や海の生き物に及ぼす影響について知り、ヨコハマ SDGs デザインセンターのウッドストローで牛乳やプルーン発酵乳を飲みました。

豊田さんは、写真家として活動されており、子どもたちはたくさんの写真を見せていただきました。海の魚や生き物、

珊瑚礁などため息が出るくらい綺麗な写真の数々。その中に突然現れるプラスチックゴミ、子どもたちからは言葉が出てきませんでした。神奈川県城ヶ島海岸に流れ着くプラスチックゴミは、海に捨てられたものや川から流れてきたものがほとんどだそうです。豊田さんは有志を募って活動を進めますが、拾っても拾ってもプラスチックゴミはなくなると言います。その原因は一言では表せず、プラスチックを生産し利用する企業、消費型の日本の社会、私たち消費者の使い方や意識など様々なところにあると考えられます。日本でも少しずつ浸透してきた脱プラスチックバッグの取り組み。豊田さんのお話では、欧米諸国ではマイバッグを使うことは当然であり、中にはペットボトルをリサイクルすることでお金に替えることができる仕組みを取り入れ



ている国では、ペットボトルをはじめプラスチックゴミが道に落ちていることはまずないそうです。

私たち一人ひとりが、この海のプラスチック問題に関わっているのだと気づいた子どもたち。では私たち国際協カクラブに何ができるでしょうか。まず自分の目で私たちが住む神奈川県の海岸がどのような現状なのか見てみたいと思います。

1月17日（日）に国際協カクラブの有志で、城ヶ島海岸へ行きプラスチックゴミの回収と調査をしてきます。子どもたちが実際に城ヶ島海岸へ行き、プラスチックゴミを集めながらどんなことを考えるのでしょうか。今からとても楽しみです。



**次回の活動日は 2月 3日(水) 14:40~15:30 です！**